

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	17-デザ研-2
-----------------	----------

平成17年度配分 研究成果の概要

研究名	地域デザイン推進の事業ネットワーク ——第3セクターを中心とした地域公民連携の在り方について——				
配分を受けた 特別研究費	デザイン研究科長特別研究費 600 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の 場合の分担
	デザイン学部	生産造形学科	教授	黒田宏治	
共同研究者					
発表の方法 (予定で可)	1 紀要(静岡文化芸術大学研究紀要)		号数	第7号 (H19年3月発行) <予定>	
	2 学会等での発表 学会等名: 第3セクター研究会 札幌シンポジウム		発表日 (発表 予定日)	平成18年9月8日 <予定>	
	3 その他 発表の方法:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

1980～90年代に地域活性化プロジェクトの担い手として増加した第3セクターは、90年代後半以降事業破綻がしばしば報じられている。

しかし、行き詰まった第3セクターの多くは都市開発、リゾート等開発型であり、比較的小規模の地域振興型についてはその後も増加し、順調に推移しているものも少なくなく、今日でも持続性ある公民連携の核となる重要な事業形態として期待されている。

本調査研究では、そのような地域振興型の第3セクター等に着目し(NPO等類似形態を含む)、地域デザイン推進の公民連携等事業ネットワーク構築の動向・課題・留意点等について調査・分析を行うことを目的とした。

(研究の実施方法等)

(1)最近の文献資料、新聞雑誌記事等から新たに取り組みられた第3セクター事業等、順調に推移していると思われる地域デザイン事例を抽出し、概要・動向を整理した。

(2)静岡県内の第3セクター型公民連携プロジェクトの成功事例といえる第3セクターの株式会社川根町温泉を対象に、数度にわたる現地調査(実地視察、ヒアリング等)を行い、具体的な事業化・運営状況に関する情報を収集・整理した。

(3)前述調査検討を通じて、第3セクター等の事業化・運営のポイント・留意点、地域公民連携の事業ネットワークの在り方を検討した。

(得られた成果等)

(1)近年の事例分析から第3セクター事業推進を俯瞰するなか、小規模ながら地域個性重視事業の増加や商社連携型事業の増加などが一つの傾向が読み取れる。

(2)主に川根町温泉のケーススタディーから、第3セクター事業推進・地域連携に際して次のような諸点への留意が必要と思われる。

①第3セクター(株式会社)形態に即した収支重視の運営が行われ、継続事業基盤の構築が図られている。

②前述基盤を踏まえ、地域内・周辺の民間企業との取引推進等を通じた地域公民連携ネットワークの形成。

③事業化当初より運営人材(プロパー)の登用、段階的権限委譲により、自立運営への早期かつ円滑な移行が図られつつある。